

2020 年度第 1 学期

H3 日本史  
実力テスト

担当：森

日時：2020 年 4 月 20 日

試験時間：60 分

問題用紙 全 22 ページ

解答用紙 全 2 ページ

【 受験上の注意 】

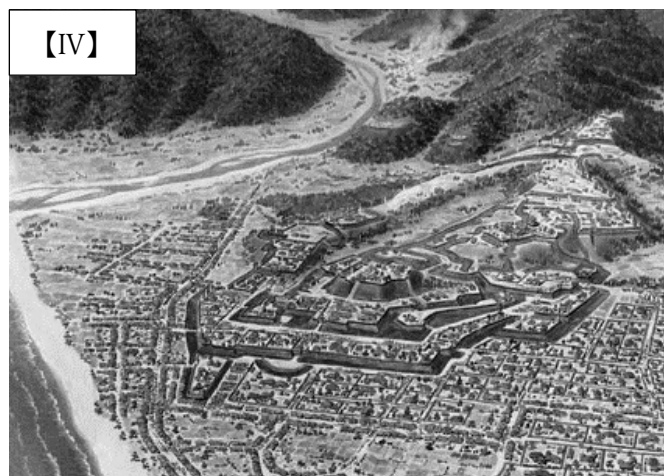
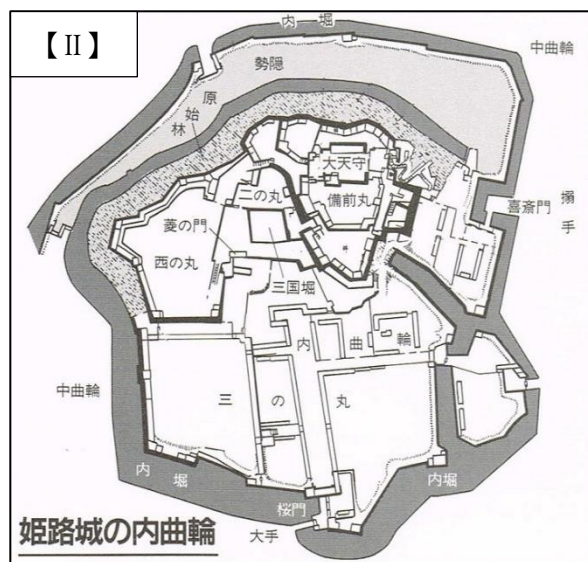
- I. 試験を行う場所は、自室等、落ち着いて受験できる場所とする。
- II. 受験する際に机上においてよいものは以下の通りとする：  
シャープペンシル、鉛筆、消しゴム、目薬、ティッシュ(包装は外したもの)
- III. 試験時間を厳正に守ること。
- IV. 試験中は、一切の電子機器の使用を禁止する。
- V. 試験中は、教科書や参考書等の参照を禁止する。
- VI. 試験問題は、一人で解くこと。他者との意思疎通等はしてはならない。
- VII. 試験問題は、自分が解くためにだけを使用すること。第三者への譲渡・掲載等は禁止する。
- VIII. 試験が全教科終わるまでは、生徒間でメールやラインなどを通じて試験の話をしてはいけないこと。
- IX. 解答は濃い目のシャープペンシル、鉛筆で書くこと。

【 日本史の試験上の注意 】

- ◇ 選択肢を選ぶ問題は、記号で解答すること。
- ◇ 文字・記号は読みやすいよう、はっきりと濃く書くこと。
- ◇ 語句は、特別な指示がない限り、正式名称で答えること。
- ◆ 試験実施中は、試験内容についての質問は一切受け付けられません。解答欄の不備、設問の明らかな不備がみとめられる場合には、試験終了後に、生徒自身から担当者へ連絡して下さい。
- ◆ 解答用紙の提出先： yaekomori@rikkyo.uk

H3	クラス	氏名
----	-----	----

1 次の資料【Ⅰ】～【Ⅳ】は、桃山文化の建築物に関するものである。これを見て、設問に答えなさい。



問1 桃山文化は、織田信長や豊臣秀吉が活動した時代に成立し、「豪華で壮大」「現実的な描写」が特徴である。このような文化は、どのような背景から成立したものか。次の説明文から、その背景として、誤っているものを1つ選びなさい。

- ① 海外との関係が制限され、日本らしさがより成熟した。
- ② 戦国時代に、旧来の価値観から、開かれた現実的で新鮮味のある時代感覚が成立した。
- ③ 全国各地に地域権力が分立していたが、全国が統一され、社会が安定した。
- ④ 戦争や貿易で富を得た豪商らが、ばく大な経済力を蓄えた。

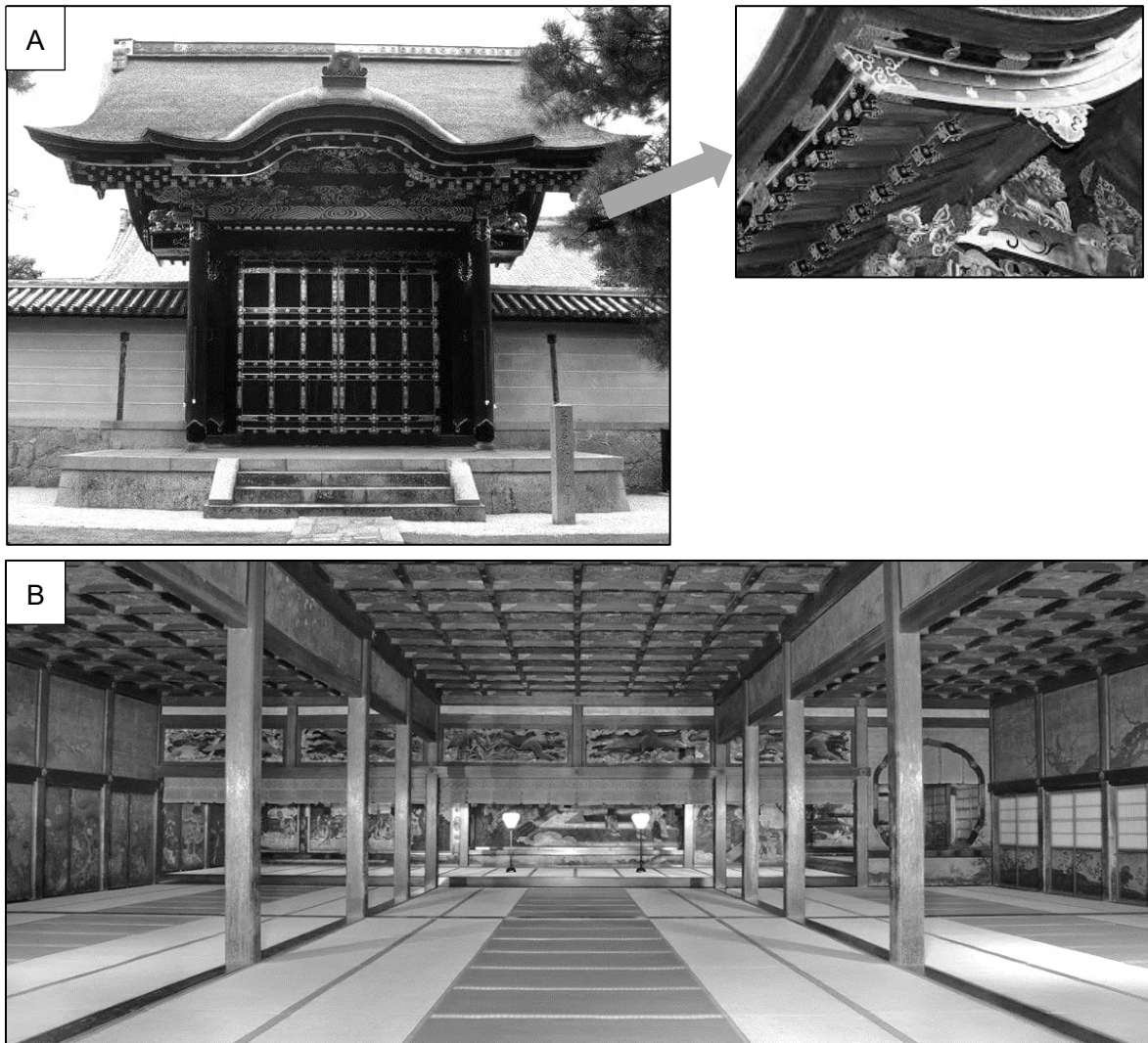
問2 資料【Ⅰ】【Ⅱ】について述べた次の文章で、正しく述べているものを1つ選びなさい。

- ① 織田信長が全国統一のため、琵琶湖畔にきずいた居城である。
- ② 平和な社会における、国や社会の統治のための建築である。
- ③ 防衛のため、堀や郭で何重にも複雑に囲む様式である。
- ④ 重層の天守閣を中央に1つだけ備え、統治者の権威を示している。



問3 資料【Ⅲ】は、資料【Ⅰ】のような城の建築が一般化する前の、城のすがたである。資料【Ⅰ】のような城は、資料【Ⅳ】のような形態で築造されることが多かった。資料【Ⅲ】と資料【Ⅳ】を比べて、何が異なるかを指摘し、なぜこのような変化があったのか、解答欄の範囲で理由を説明しなさい。

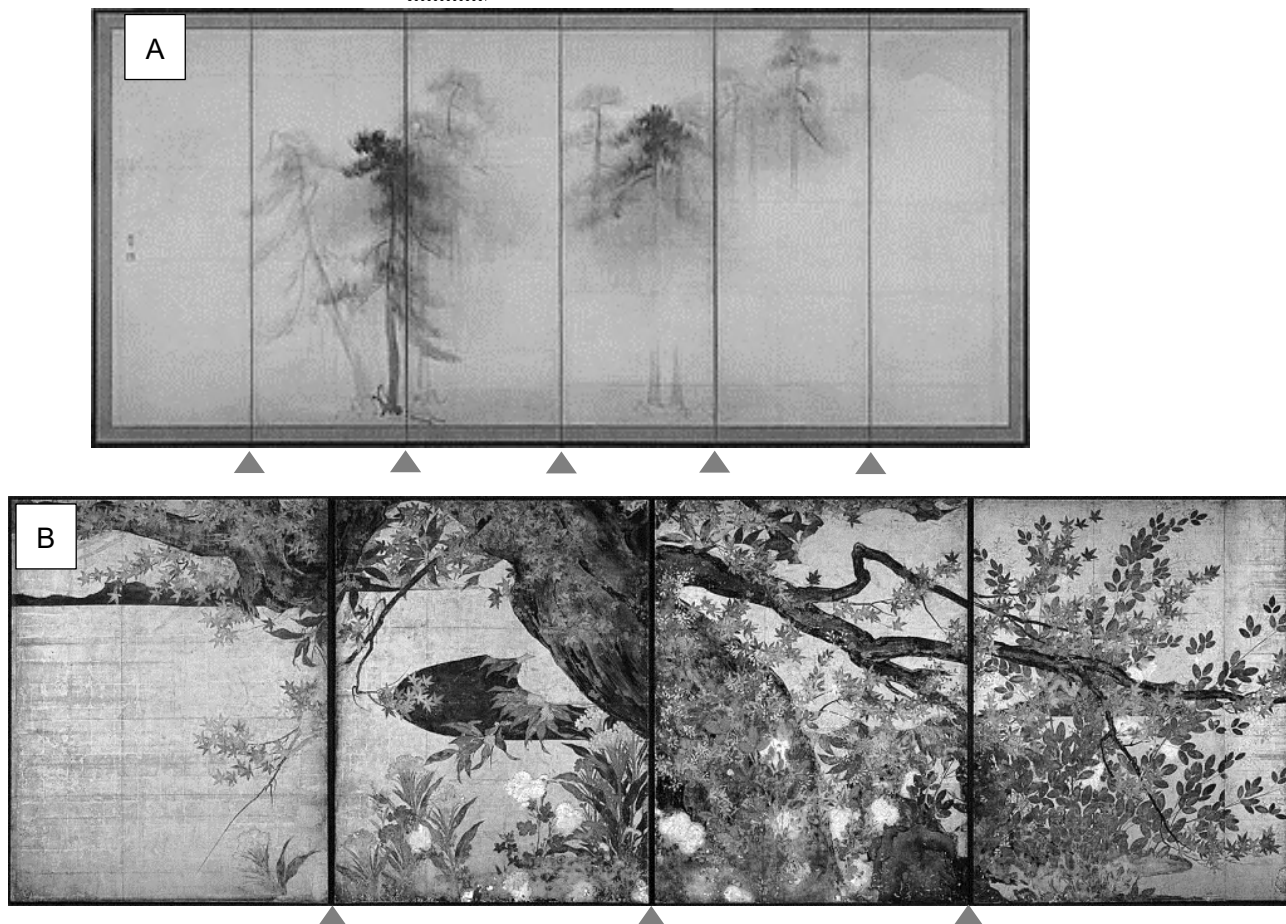
問4 次のA・Bは、資料【Ⅰ】のような城で見られる、建築の一部や、内部の構造である。これについて説明したア～エの文章について、正しく述べている文の組み合わせを、①～④から1つ選びなさい。



- ア. Aは、西本願寺飛雲閣で、聚楽第の遺構と考えられていた。  
イ. Aは、勢威を示すため、飾り金具や透かし彫りを用いる装飾が見られる。  
ウ. Bは、西本願寺鴻の間で、書院造がとりいれられている。  
エ. Bは、武士の質素儉約の精神をいかし、簡素だが品のある様式である。

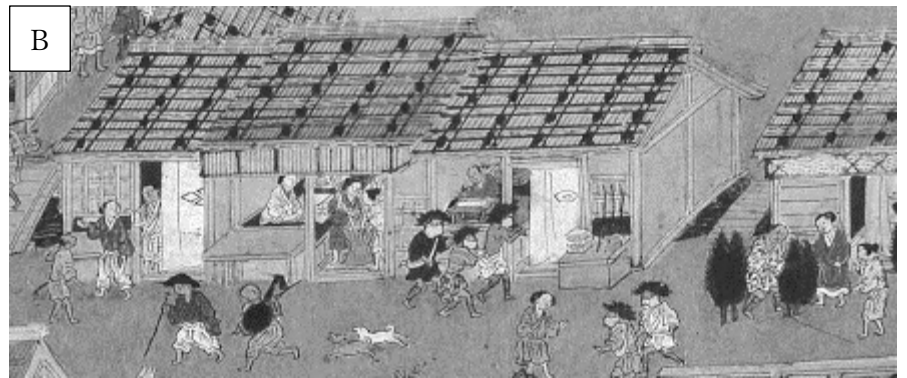
- ① ア・ウ      ② ア・エ      ③ イ・ウ      ④ イ・エ

問5 次のA・Bは、資料【I】のような城で見られる、室内装飾である。



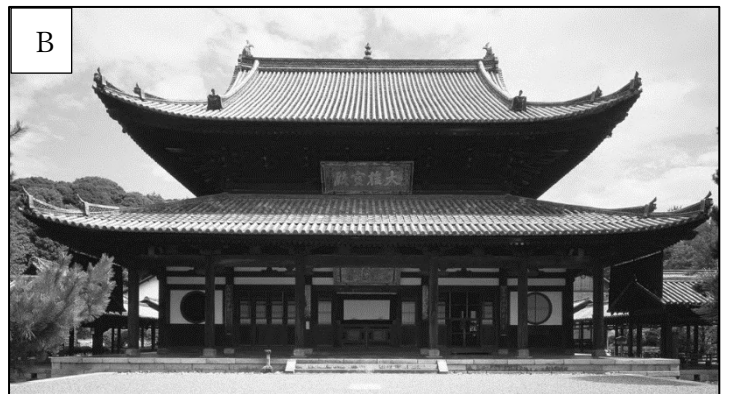
- (1) A・Bの名称を、次の中から1つずつ選んで、それぞれ答えなさい。
- ① 『松鷹図』                      ② 『高雄観楓図屏風』                      ③ 『智積院襖絵楓図』  
 ④ 『松林図屏風』                      ⑤ 『唐獅子図屏風』
- (2) A・Bの作品に共通する製作者を、次の中から1人選んで答えなさい。
- ① 海北友松                      ② 狩野永徳                      ③ 長谷川等伯                      ④ 高三隆達
- (3) AとBの絵画としての違いは何か。次の中から正しく述べている文を1つ選んで答えなさい。
- ① Aは、Bとは異なり、濃絵の手法で描かれている。  
 ② Aは、Bとは異なり、1枚の紙に描かれ、庶民に販売される絵画である。  
 ③ Bは、Aとは異なり、金箔地に、朱・青・緑などの絵の具で描かれている。  
 ④ Bは、Aとは異なり、権力者の権威を示す目的として描かれてはいない。
- (4) A・Bそれぞれの絵画は、上記の写真を見ると、それぞれ縦に何本かの線が入って見える。その線の部分を、絵画下方に▲で示した。この線を参考に、A・Bの絵画が『室内装飾』である  
とはどういう意味かを、解答欄の範囲内で説明しなさい。

問6 次の資料A・Bは、桃山文化の風俗を示している。これを説明した文章①～④から、適切に述べているものを1つ選びなさい。



- ① Aは、南蛮から伝わったキセルで、喫煙の習慣が広まった様子を示している。
- ② Aは、小袖が一般化し、男女は結髪するようになった様子を示している。
- ③ Bは、1日2食から、朝昼晩の3食へと食習慣が変わった様子を示している。
- ④ Bは、庭がついた、瓦屋根の二階建て住居が広がった様子を示している。

問7 次の建築物A・Bは、江戸時代の寛永期に成立したものである。



(1) A・Bについて説明した次の文章で、誤って述べているものを1つ選びなさい。

- ① Aは、書院造と茶室建築を組み合わせた数寄屋造が特徴である。
- ② Aは、神社、寺、墓の役割を持った霊廟建築としてつくられた。
- ③ Bは、隠元隆琦により伝来した黄檗宗の建築物として建造された。
- ④ Bは、反りがあがった屋根や、屋根の上の宝珠、掲げられた額など中国風である。

(2) 桃山文化では文化を代表する特徴として、それまで数多く制作された寺院や仏像がほとんど見られず、江戸時代の初期に入ってわずかに仏教の建築物が登場する。これはなぜか。説明しなさい。



2 次の表は、戦国時代から江戸時代の儒学に関してまとめたものである。これを見て、設問に答えなさい。

古学派	〔                    ア                    〕	
	聖学	山鹿素行は『聖教要録』を著して、朱子学を批判し、流刑となった。
	堀川学派	伊藤仁斎は（      a      ）をひらき、教育に力を尽くした。
	古文辞学派	八代将軍徳川吉宗に登用された荻生徂徠は、 <u>(b)経世論</u> を説き、その弟子の太宰春台は師の学説を進めて『経済録』を著した。
朱子学	〔                    イ                    〕	
	官学	藤原惺窩によって京学が確立 →弟子の <u>(c)林羅山</u> が徳川家康に登用される。 <u>(d)木下順庵の弟子ら</u> が、幕府に次々と仕える
	南学	南村梅軒によって確立 →弟子の <u>(e)谷時中</u> が育てた学者らが、次々に藩政に <u>参与する</u>
陽明学	〔                    ウ                    〕	
	岡山藩主池田光政に仕えた（      f      ）は、『大学或問』を著し、幕府の政治に異論を唱えたため、幕府によって古河に幽閉された。	

問1 現代の我々日本人のものの考え方や感覚には様々な思想の影響があり、その大きな基盤の1つが儒学である。次の①～④のうち、儒学の影響と明らかにいえない事例を1つ選びなさい。

- ① 一郎君は、学校をさぼらずにちゃんと勉強して親孝行しなさい、と言われたことがある。
- ② <sup>ふみ</sup>二美ちゃんは、1つ年上の姉妹を「お姉ちゃんと呼んで敬いなさい」と教えられた。
- ③ <sup>みつひろ</sup>三浩君は、大学を卒業すると会社を興して成功し、次々に対立する会社を倒産に追い込んだ。
- ④ <sup>よつは</sup>四葉さんは看護学校卒業後、奨学金を支給してくれた病院に恩を感じ、40年間奉職し続けた。

問2 空欄〔ア〕～〔ウ〕にあてはまる説明を、次の中から2つずつ選んで答えなさい。

- ① 『論語』や『孟子』などの原典にあたって、孔子の真意をくみ取ろうとした。
- ② 君臣・父子の別や長幼の序といった身分秩序とそれに伴う礼節を重視した。
- ③ 後代の儒者である朱熹や王陽明による権威ある解釈に、対立する姿勢を示した。
- ④ 社会の矛盾を改めようとしたため、幕府に警戒された。
- ⑤ 封建社会を維持する教学として、幕府によって保護を受けた。
- ⑥ 和歌や古典の研究を通じて、古代精神の探究を行おうとした。
- ⑦ 知ることは実践を伴うとする、知行合一の精神を重んじた。

問3 空欄（a）にあてはまる語句を、次の中から1つ選んで答えなさい。

- ① 古義堂                    ② 閑谷学校                    ③ 妙喜庵待庵                    ④ 湯島聖堂

問4 下線部(b)とは何か。次の中から1つ選んで答えなさい。

- ① 身分制度を否定し、万民が農業を行うことで理想社会が実現するとした。
- ② 政治によって商工業の育成と経済の統制を行い、生かすことを主張した。
- ③ 鎖国によって、海外に学んだ制度の昇華と充実を目指した。
- ④ 世の人々の教育を充実させ、より教養の高い社会の実現を唱えた。

問5 下線部(c)について述べた次の文章で、正しく述べたものを1つ選びなさい。

- ① 老中として幕政に参加した。
- ② 息子の鷲峰と共に、『本朝通鑑』の歴史書を著した。
- ③ 上野忍ヶ岡に一族の家塾を置き、後に寺子屋に再編された。
- ④ 政治と道徳の区別をつけて、儒教を用いようとした。

問6 次のⅠ・Ⅱは、下線部(d)・(e)に関係する人物である。説明文A～Dとの正しい組み合わせを①～④から1つ選んで答えなさい。

Ⅰ. 山崎闇斎                      Ⅱ. 新井白石

- A. 土佐藩に家老として仕えた。
- B. 儒教の見地から神道を解釈した垂加神道をとらえた。
- C. 8代将軍徳川吉宗に登用された。
- D. 『大日本史』の編纂を行った。

- ① Ⅰ－A                      ② Ⅰ－B                      ③ Ⅱ－C                      ④ Ⅱ－D

問7 空欄(f)にあてはまる人物を、次の中から1人選んで答えなさい。

- ① 熊沢蕃山                      ② 室鳩巢                      ③ 貝原益軒                      ④ 関孝和

3 寛永期の文化と元禄文化の江戸時代の2つの文化について、次の文章を読んで、設問に答えなさい。

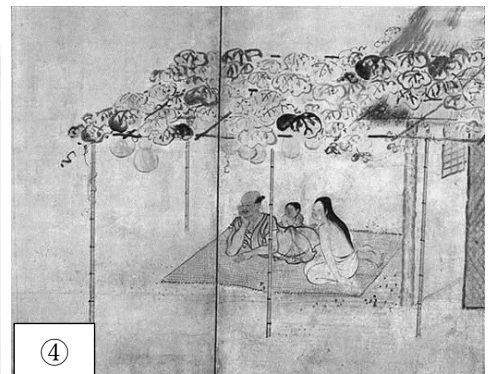
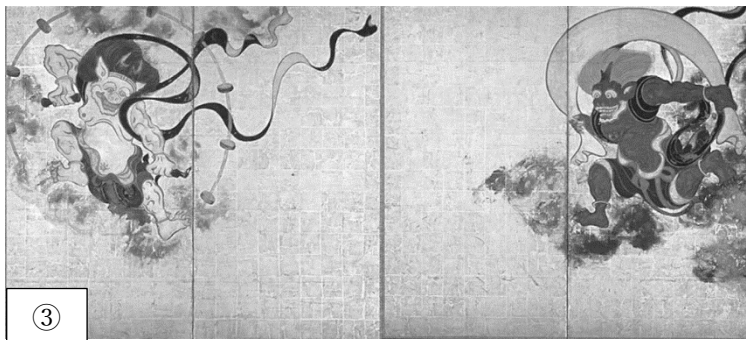
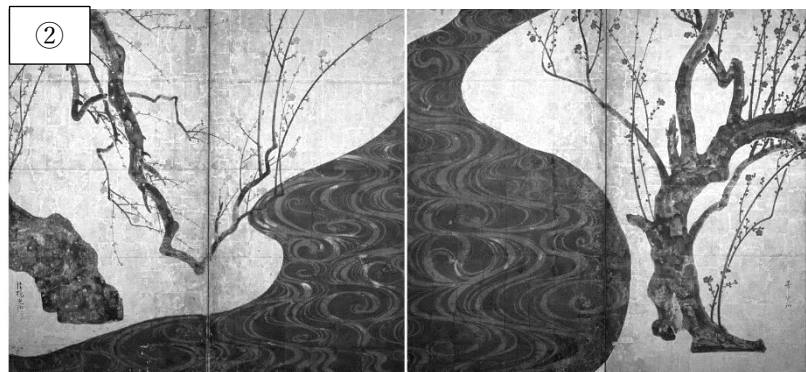
江戸時代初期の文化は、桃山文化を受け継いだが、幕藩体制が安定するにつれて、寛永期前後に新しい傾向を示し始めた。絵画では狩野派から狩野探幽が出て、幕府の御用絵師となったほか、京都にあらわれた（ ア ）は『風神雷神図屏風』を描いて装飾画に新様式を生み出し、(a)元禄期の琳派の先駆けとなった。文芸面では、教訓・道徳を主とした仮名草子が現れ、また(b)連歌から俳諧が独立して、貞門俳諧が流行するなど、新たな民衆文化の基盤が作られた。

このような文化の礎の上に、幕政の安定と経済の著しい発展によって、（ イ ）の場所を中心に、富裕層だけでなく（ ウ ）をも担い手として、元禄文化が花開くことになった。5代将軍徳川綱吉の元禄時代ごろが中心の頃である。その主な特色は〔 I 〕、〔 II 〕、〔 III 〕であった。上方の(c)町人文芸が中心で、それを脚本として、人形浄瑠璃や歌舞伎が民衆の演劇として発達した。また(d)自然科学や国文学の発達と主に、いちだんと洗練された美術が、(e)寛永期から続くやきもの、絵画、様々な工芸品などの分野で生み出された。

問1 空欄（ア）にあてはまる人物を、氏名で答えなさい。

問2 下線部(a)について。

（1）次の①～④から、下線部(a)の作品にあたるものを1つ選びなさい。



（2）(1)で選んだ絵画の説明として、適切なものを次の中から1つ選んで答えなさい。

① 金箔の上に朱や白、銀などの絵の具を用い、木や川を図案的に配することで全体の調和



を重んじる、力強くも繊細な絵画である。

- ② 新たな墨絵の技法と、伝統的な大和絵の技法を組み合わせた、新しい絵画である。
- ③ 伝統的な大和絵の持つやわらかな色味の絵の具を用いて、繊細で精緻な筆使いによって描かれた。
- ④ 一見なんでもない風景画のように見えるが、絵画の中に仏教的なテーマを盛り込み、その宗旨を伝えている。

問3 下線部(b)について、元禄期には松尾芭蕉が出て、蕉風俳諧が成立し、現代のいわゆる“俳句”の基礎となった。次の資料を参考にしつつ、俳諧について説明した①～④の文章から誤って述べているものを1つ選びなさい。

〈蕉風俳諧〉	〈貞門俳諧〉
夏草や <sup>つはもの</sup> 兵 どもが 夢の跡	昼中に よその木の実を かつ物か
古池や <sup>かわず</sup> 蛙 飛び込む 水の音	すべるらし <sup>くみ</sup> 水汲道の のぼり坂

- ① 俳諧は、和歌の形式を更に短くした「5・7・5」の形式で成立した。
- ② 俳諧の製作は、公家や武士の間で好まれ、広く普及した。
- ③ 蕉風俳諧は、幽玄閑寂さや言外の余情を重んじる作風としている。
- ④ 貞門俳諧は、かけことばなどによる奇抜な面白さを作風としている。

問4 空欄(イ)(ウ)にあてはまる語句の組み合わせを、次の中から1つ選びなさい。

- ① (イ) 江戸 (ウ) 一般の町人ら
- ② (イ) 江戸 (ウ) 公家・僧侶・武士ら
- ③ (イ) 京都・大坂 (ウ) 一般の町人ら
- ④ (イ) 京都・大坂 (ウ) 公家・僧侶・武士ら

問5 空欄〔Ⅰ〕～〔Ⅲ〕にあてはまるものを、次の中から3つ選んで答えなさい。順不同なので、〔Ⅰ〕～〔Ⅲ〕それぞれにあてはめて解答する必要はない。

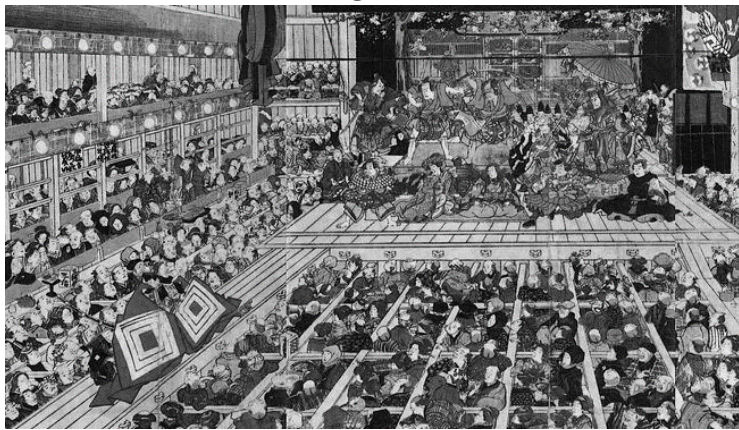
- ① 鎖国状態が確立したことで外国の影響が少なくなり、日本独自の文化が成熟したこと
- ② 幕藩体制の矛盾が深まる中で、近代的な合理主義や幕府政治のあり方を批判する風潮が高まったこと
- ③ 平和と安定の中で、天文学など科学的な分野も含め、合理的で実利的な学問が重視されたこと
- ④ 文学・美術工芸・演劇などで、広範な民衆層に受容された背景には、紙の生産や出版・印刷の技術、流通の発展があったこと
- ⑤ 公家文化と武家文化の融合が進み、並行して成長しつつあった惣村で民衆による文化が育まれたこと

問6 下線部(c)について述べた次の文で、正しい文を1つ選びなさい。

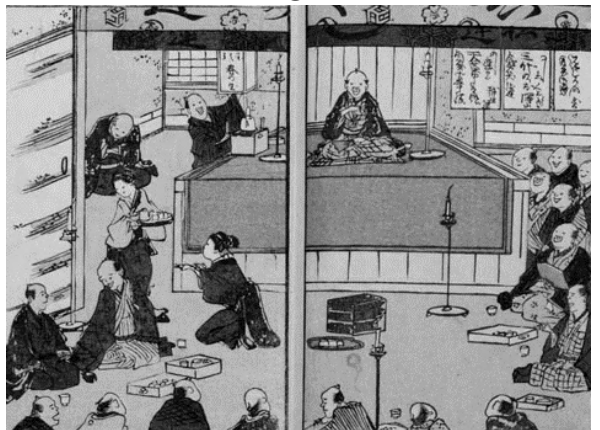
- ① 井原西鶴は『奥の細道』や『国姓爺合戦』など、人間の本能や欲望を題材とする写実的作品を著した。
- ② 近松門左衛門は『日本永代蔵』や『好色一代男』などを著し、義理と人情との間で苦しむ男女の葛藤を得意とした。
- ③ 人形浄瑠璃は、安土・桃山時代に出雲の阿国によって始められたと考えられている。
- ④ 歌舞伎は風俗上の理由から、男性のみによって演じられ、荒事の市川団十郎や女形の吉沢あやめなどが活躍した。

問7 下線部(c)について、人形浄瑠璃にあたるものを、次の中から1つ選んで答えなさい。

①



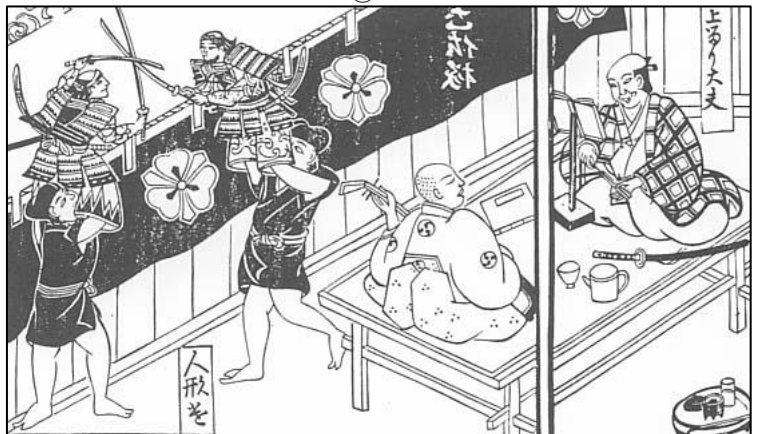
②



③



④



問8 次の2つの資料はそれぞれ書物の中から抜粋したもので、下線部(d)のうち、ある特定の学問分野に係るものである。



きぬぬす人を知る事  
(意訳) 盗賊団の会話が橋の下から聞こえる。盗んできた反物(\*)を分配しようとしているようだ。「七反ずつ分けると八反余る。八反ずつ分けると七反足りない。どうしたものか。」さて、盗賊は何人で、反物は何反あるか。  
\* たんもの…着物にする前の布を巻いたもの。



〈次の設問の解を示している〉大円の中に中円が1つと小円が2つそれぞれ図2のように接している。大円から中円と小円を取り除いた部分(外余)の面積が120歩、小円の直径(小円径)は中円の直径(中円径)より5寸短い。このとき、大円、中円、小円の直径を求めよ。

(1) 左記の2つの資料について、その説明として、次の文章からあてはまるものを1つ選びなさい。

- ① 植物・動物・鉱物から薬用効果を研究する、本草学が発達した。
- ② 和算が発達し、初等教育として子供に教育する試みも行われた。
- ③ 『農業全書』や『農具便利論』など、農業技術の方法を教える書物が著された。
- ④ 渋川春海は、従来の暦の誤差を修正して、新たに貞享暦を作成した。

(2) 左記の2つの資料のようなある特定の学問分野が発達することになったのはなぜか。当時の社会背景と結びつけて説明しなさい。

問9 下線部(e)について、次のA・Bは、寛永期と元禄期の美術品である。説明文 i～iv との適切な組み合わせを、下記①～④から1つ選びなさい。

A



B



- i. 酒井田柿右衛門は、うわぐすりの上に色絵をのせる上絵付法を創始した。
- ii. 宮崎友禅は、置糊によって色が交じらない友禅染の技法を創始した。
- iii. 本阿弥光悦は、蒔絵と螺鈿の技法による工芸技術を高めた。
- iv. 野々村仁清は、複数の版木を使った多色刷で、多くの浮世絵を生み出した。

- ① A－i                      ② A－ii                      ③ B－iii                      ④ B－iv



4 原始・古代の社会に関する次の文章A・Bを読み、下記の設問に答えなさい。(史料は、一部省略したり、書き改めたりしたところもある)

A 縄文時代の社会は狩猟・採集経済であり、貧富の差や身分の上下関係はなかったと考えられている。弥生時代には、<sup>㉑</sup>水稻耕作が本格的に展開し、農耕社会が成立すると、社会関係にも変化が生じ、集団内では身分の差が明らかになった。古墳時代になると、支配者の豪族と被支配者の民衆の生活がはっきり分かれ、被支配者である民衆はヤマト政権の下で部民として王族・豪族らにより所有された。豪族らの所有する私有民は **ア** とよばれ、「大伴部」・「蘇我部」のように豪族のウジ名に「部」を付して称された。

7世紀半ば以降、中央集権体制の形成がすすめられ、民衆は国家の民(公民)として支配されることになった。646年に出された「改新の詔」では豪族の所有する **ア** の廃止が宣言され、その廃止は強大な権力を掌握した天武天皇の時代に実現した。さらに、持統天皇の時代には飛鳥浄御原令の施行にもとづいて **イ** が作成され、人々は里ごとに編成された。その後、大宝律令の制定・施行によって、<sup>㉒</sup>律令制にもとづいた公民支配が確立した。

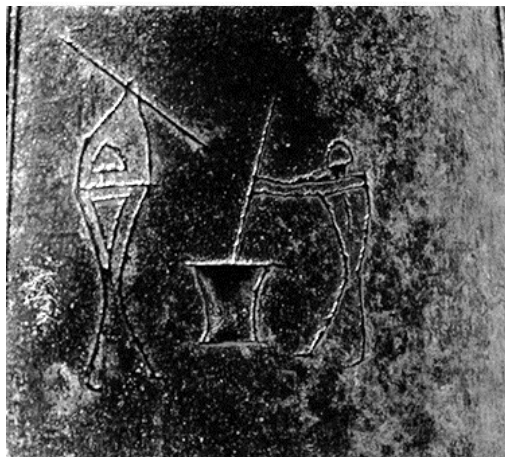
問1 空欄 **ア** **イ** に入る語句の組合せとして正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- |   |   |         |   |      |
|---|---|---------|---|------|
| ① | ア | 名代・子代の部 | イ | 庚午年籍 |
| ② | ア | 名代・子代の部 | イ | 庚寅年籍 |
| ③ | ア | 部 曲     | イ | 庚午年籍 |
| ④ | ア | 部 曲     | イ | 庚寅年籍 |

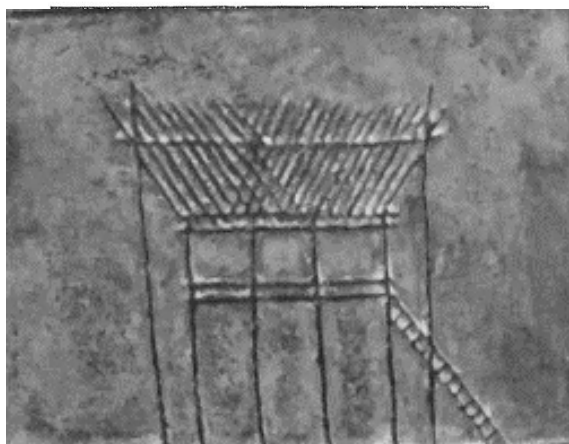


問2 下線部②に関連して、弥生時代の農耕や生活の様子は当時の銅鐸に描かれた絵からも知ることができる。次の絵甲・乙に関して述べた下の文a～dについて、正しいものの組合せを、下の①～④のうちから一つ選べ。

甲



乙



- a 甲は、木製の鋤と鍬を用いて荒起ししている様子を描いたものである。
- b 甲は、木製の臼と竪杵を用いて脱穀している様子を描いたものである。
- c 乙は、高床式の倉庫とみられる建物を描いたものである。
- d 乙は、地表面を床面とした平地住居を描いたものである。

- ① a・c                      ② a・d                      ③ b・c                      ④ b・d

問3 下線部③に関連して、律令制下の公民支配に関して述べた次の文X・Yと、それに該当する語句a～dとの組合せとして正しいものを、下の①～④のうちから一つ選べ。

X 戸籍にもとづいて、6歳以上の男女に一定額の田が班給された。

Y 公民の負担として、調・庸などの貢納物を都まで運ぶ義務があった。

- a 口分田                      b <sup>くえいでん</sup> 公営田                      c 運脚                      d 雑徭

- ① X — a                      Y — c                      ② X — a                      Y — d
- ③ X — b                      Y — c                      ④ X — b                      Y — d

B 8世紀末から9世紀にかけて、農民の階層分化がすすむなかで、「富豪の輩」<sup>ともがら</sup>などと呼ばれた有力農民が台頭した。㉔彼らは中央の貴族や官司などとの関係を結んで納税を忌避するようになり、政府の税収入は減少し深刻な財政難となった。こうした状況に対して、醍醐天皇は10世紀初めに **ウ** の荘園整理令を出して律令制的な土地制度の回復をはかったが効果はなく、やがて政府は土地制度や税制度を転換した。<sup>みょう</sup>名(名田)と呼ばれる田地を課税単位とし、その耕作・納税を有力農民である **エ** に請け負わせるようになった。11世紀になると、有力な **エ** は墾田開発をすすめ、耕地だけでなく山林原野や集落をも含みこんだ広大な所領を支配する開発領主へと成長していった。その所領の耕地は、国司の課税対象であったが、やがて開発領主は国司の徴税攻勢に対抗するために所領を有力な貴族・寺社に寄進し、㉕寄進地系荘園が形成されていった。

問4 空欄 **ウ** **エ** に入る語句の組合せとして正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① ウ 延 喜      エ 田 堵
- ② ウ 延 喜      エ 目 代
- ③ ウ 延 久      エ 田 堵
- ④ ウ 延 久      エ 目 代

問5 下線部㉔に関連して、次の史料は「富豪の輩」の動向について書かれたものである。この史料から読みとれる内容に関して述べた文として誤っているものを、下の①～④のうちから一つ選べ。

### 史料

#### 太政官符

まさに所部に居住する六衛府の舎人(注1)等の、国司に対捍(注2)し官物を進<sup>たてまつ</sup>らざるを科罪すべき事

右、播磨国の解<sup>げ</sup>を得るにいわく、この国の百姓、過半はこれ六衛府の舎人なり。初め府牒(注3)ありて国を出でて以後、偏<sup>ひと</sup>えに宿衛(注4)と称して課役を備えず。田疇<sup>でんちゅう</sup>を領作して正税(注5)を受けず。無道<sup>むね</sup>を宗となし、国郡に対捍す。あるいは作るところの田の稲、私宅に刈り収むるの後、(中略)本府(注6)の物と称し、勢家(注7)の稲と号す。あるいは事<sup>や</sup>已むをえず、収納使等認徴(注8)の時、是非を弁ぜず捕えてもって凌轢<sup>りょうれき</sup>(注9)す。ややもすれば群党を招き、ほしいままに濫悪<sup>な</sup>を作す。(中略)よろしく教諭<sup>きょうゆ</sup>を加え、違背することなからしむべし。(後略)

昌泰四年(注10)閏六月二十五日

(『類聚三代格』)

(注1) 舎人：衛府に属する兵力

(注2) 対捍：逆らうこと、抵抗すること

(注3) 府牒：衛府からの文書

(注4) 宿衛：宿直して護衛すること

(注5) 正税：出挙の稲

(注6) 本府：所属している衛府

(注7) 勢家：勢力ある家、貴族のこと

(注8) 認徴：徴収すること

(注9) 凌轢：暴行

(注10) 昌泰四年：901年

- ① 農民らは、舎人として勤めていることを理由に課役を納めなかった。
- ② 農民らは、出挙の稲を借りたが、その利息の返済をしなかった。
- ③ 農民らは、収穫した稲を衛府や貴族の所有物と称した。
- ④ 農民らは、国司が派遣した役人に対し暴力をふるうこともあった。

問6 下線部④に関して述べた次の文X・Yについて、その正誤の組合せとして正しいものを、下の①～④のうちから一つ選べ。

X 所領を寄進した開発領主は在庁官人となり、寄進を受けた貴族・寺社は領家とよばれた。

Y 荘園のなかには、政府から租税を免除される不輸の権を認められるものもあった。

① X 正 Y 正

② X 正 Y 誤

③ X 誤 Y 正

④ X 誤 Y 誤



5 中世の政治・社会・文化に関する次の文章A・Bを読み、下記の設問に答えなさい。(史料は、一部省略したり、書き改めたりしたところもある)

A 平安時代中期以降、公家は、朝廷の儀式を滞りなく行うことを重要視した。そのため、儀式・先例を研究する **ア** の学問がさかんになり、また日記を作成して子孫に朝廷の儀式次第や先例などを伝えた。

こうした日記の一つに、藤原<sup>つねみつ</sup>経光が書き残した『民経記』がある。経光は1221年に仲恭天皇の蔵人に就任したものの、<sup>かねなか</sup>Ⓐ承久の乱により天皇が退位したため、実際に官人として活動したのは1226年からで、その日記には朝廷の公事に関する記録が書き残されている。記事を見ると、彼は、さまざまな作法を学ぶため、父<sup>よりすけ</sup>頼資の日記を参照して、父の前例を確認していたことがわかる。

経光の日記も子孫に伝えられ、子の兼仲<sup>かねなか</sup>はこれを書写して学んでいる。さらに兼仲自身も、『勘仲記』という日記を書き残している。この日記は、当時の朝廷の公事を伝えるだけではなく、<sup>これやす</sup>Ⓑ蒙古襲来の様子、皇族出身の6代将軍 **イ** のあとに7代将軍となった<sup>これやす</sup>惟康親王の上洛の様子、大覚寺・持明院両統の対立などに関するものなど、注目すべき記事が記載されている。

問1 空欄 **ア** **イ** に入る語句の組合せとして正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- |   |   |      |   |      |
|---|---|------|---|------|
| ① | ア | 有職故実 | イ | 護良親王 |
| ② | ア | 有職故実 | イ | 宗尊親王 |
| ③ | ア | 古今伝授 | イ | 護良親王 |
| ④ | ア | 古今伝授 | イ | 宗尊親王 |

問2 下線部②に関連して、承久の乱やその前後の動向に関して述べた文として正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① 後鳥羽上皇は、幕府に対抗するため新たに湊口の武士を設置して軍事力の増強をはかった。
- ② 幕府は、執権北条時政の子義時・時房の率いる軍を京都へ派遣して上皇方と戦った。
- ③ 乱後、幕府は京都に六波羅探題を設置し、朝廷の監視や京都内外の警備などを担当させた。
- ④ 乱後、幕府が院政を停止させたために、以後、院政は行われなくなった。

問3 下線部③に関して述べた次の文X・Yと、それに該当する語句・人物a～dとの組合せとして正しいものを、下の①～④のうちから一つ選べ。

X 文永の役後、幕府は元軍の上陸を阻むために、御家人に命じて博多湾沿いに防塁を構築させた。

Y 戦闘に参加した肥後国の御家人が、自分の武勲を中心に絵巻物に描かせた。

a <sup>みず</sup>水 <sup>き</sup>城

b <sup>いしついじ</sup>石築地

c 和田義盛

d 竹崎季長

① X — a      Y — c

② X — a      Y — d

③ X — b      Y — c

④ X — b      Y — d

B 室町時代、一条兼良は、9代将軍 **ウ** のために政治意見書の『樵談治要』を著した。これは、応仁の乱の最中に就任した年少気鋭の将軍が、乱の終息を機に幕府権威の回復をはかり、学識の深い兼良にその方策を諮問したことを受けて書かれたものである。

兼良は、㉓この書のなかで8カ条の方策を示し、守護の選任、訴訟・裁判の不正を正すべきこと、側近政治の弊害を説くなどしている。

もっとも、兼良の子で、南都の **エ** 大乘院の門跡であった尋尊は、その日記『大乘院寺社雑事記』のなかで、兼良の『樵談治要』呈上のことに触れ、そのあとに「用に立たざる事也」と記している。当時の幕府には、有力守護大名を討伐していたころの力は既になく、兼良の示した方策は、㉔失墜した将軍権威のもとでは実行困難なものが多く、その意味で「用に立たざる」ものだったのかもしれない。

問4 空欄 **ウ** **エ** に入る語句の組合せとして正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- |   |   |      |   |     |
|---|---|------|---|-----|
| ① | ウ | 足利義視 | エ | 興福寺 |
| ② | ウ | 足利義視 | エ | 延暦寺 |
| ③ | ウ | 足利義尚 | エ | 興福寺 |
| ④ | ウ | 足利義尚 | エ | 延暦寺 |

問5 下線部㉔に関連して、次の史料は『樵談治要』の一節である。この史料に関して述べた下の文X・Yについて、その正誤の組合せとして正しいものを、下の①～④のうちから一つ選べ。

### 史料

(前略)此たひ(注1)はしめて出来<sup>いできた</sup>れる足かるは、超過したる悪党也。其故は洛中・洛外(注2)の諸社・諸寺・五山・十刹<sup>じっさつ</sup>・公家・門跡<sup>もんぜき</sup>の滅亡は、かれらか所行也。かたきのたて籠<sup>こもり</sup>たらん所にをきては力なし。さもなき所々を打やふり、或は火をかけて財宝を見さくる事は、ひとへにひる強盗といふへし。かゝるためしは先代未聞のこと也。是はしかしながら(注3)、武芸のすたるゝ所にかゝる事は出来<sup>な</sup>れり。名有侍<sup>なある</sup>のたゝかふへき所をかれらにぬきゝせたる(注4)ゆへなるへし。(後略)

(注1) 此たひ：ここでは応仁の乱のこと

(注2) 洛中・洛外：京都内外

(注3) しかしながら：すべて

(注4) ぬきゝせたる：まかせた

X 一条兼良は、京都内外の神社仏閣などの衰亡は、応仁の乱で登場した足輕の仕業であると考えている。

Y 一条兼良は、武芸が衰退した時代であるから、足輕を有効に利用して戦うことが重要であると考えている。

① X 正 Y 正

② X 正 Y 誤

③ X 誤 Y 正

④ X 誤 Y 誤



問6 下線部④に関連して、室町時代から戦国時代には将軍権威の動揺や失墜をあらわす出来事が起こった。その出来事に関して述べた次の文Ⅰ～Ⅲについて、古いものから年代順に正しく配列したものを、下の①～⑥のうちから一つ選べ。

- Ⅰ 将軍足利義教が守護の弾圧をすすめるなか、危機感を抱いた播磨の守護赤松満祐が将軍を謀殺した。
- Ⅱ 鎌倉公方足利成氏が下総国古河に移って幕府に抵抗したため、将軍足利義政が足利政知を東下させたが、鎌倉に入れなかった。
- Ⅲ 管領細川氏の家臣三好長慶が死去すると、松永久秀が幕府の実権を掌握し、将軍足利義輝を襲って自害に追い込んだ。

- |             |             |             |
|-------------|-------------|-------------|
| ① Ⅰ — Ⅱ — Ⅲ | ② Ⅰ — Ⅲ — Ⅱ | ③ Ⅱ — Ⅰ — Ⅲ |
| ④ Ⅱ — Ⅲ — Ⅰ | ⑤ Ⅲ — Ⅰ — Ⅱ | ⑥ Ⅲ — Ⅱ — Ⅰ |

(1) 徳川家康は、関ヶ原の戦いに勝利し、天下人の地位を固め、やがて征夷大將軍となって、江戸に幕府を開いた。その後、將軍の地位を徳川秀忠に譲り、自らは[A]に移り住んで大御所として、実権を握っていた。ことに外交などには積極的で、イギリス・オランダ人を招いて顧問としたり、スペインとの交易をもとめ、[B]をメキシコに派遣した。また<sup>(a)</sup>朱印船貿易を推し進めた。さらに大坂の役で、豊臣氏を滅ぼすのに前後して、諸法度を出し、武家・朝廷・公家・寺社の統制を行った。

家康が亡くなると、2代將軍秀忠は、広島福島の改易などを行い、大名・公家・寺社に領知宛状を交付し、將軍としての權威を示した。また朝廷の統制も強め、娘和子を[C]天皇に入内させた。一方、キリシタン禁令を強化し、貿易港の制限を進めた。

3代將軍徳川家光は、大御所秀忠が亡くなると、熊本に加藤氏を改易し、大軍を率いて上洛して、その威信を示した。また<sup>(b)</sup>武家諸法度や、大名などを動員する時の基準である軍役令を改訂した。家光の時代には、幕府機構も整っていった。それまで年寄という重臣が政務をみていたが、老中と、老中を補佐し旗本を監督する任務にあたる[D]に職務が分割され、寺社・町・勘定奉行の三奉行制も確立していった。対外的には、<sup>(c)</sup>鎖国が完成し、幕藩体制が安定していった。

問1. 空欄[A]～[D]に入る語句として最も適切なものを、次の中から一つずつ選べ。

[A] ①日光 ②伏見 ③駿府 ④京都 ⑤浜松

[B] ①支倉常長 ②伊東マンショ ③有馬晴信  
④茶屋四郎次郎 ⑤田中勝介

[C] ①正親町 ②後水尾 ③後陽成 ④明正  
⑤孝明

[D] ①若年寄 ②大目付 ③目付 ④側用人  
⑤大老

問2. 下線部(a)に関連して述べた文として最も適切なものを、次の中から一つ選べ。

- ① 朱印船は、寧波・トンキン・アンナン・カンボジアなどで貿易を行った。
- ② 朱印状を交付されたものには、末吉孫左衛門・末次平蔵などの商人や、島津家久・高山右近などの大名がいた。
- ③ 朱印船貿易で輸入されたものは生糸・絹織物・砂糖・鹿革・鮫皮などで、輸出されたのは金を中心に、当時日本からの輸出金は世界の産金の三分の一に及んだ。
- ④ 朱印船は、やがて老中の発行する奉書もたずさえることが必要となり、奉書船というようになった。
- ⑤ 朱印船などの海外進出で、東南アジアには日本人が移住した。アンナンの山田長政は当地の王家に仕えて活躍した。

問3. 下線部(b)に関連して、武家諸法度について述べた文として最も適切なものを、次の中から一つ選べ。

- ① 最初の武家諸法度は、林羅山が起草して、当時の將軍徳川秀忠の名前で出された。
- ② 將軍秀忠の武家諸法度には、一国に一城とすることが定められていた。
- ③ 將軍家綱の時に、末期養子の禁緩和・殉死禁止が命じられ、將軍綱吉の時に武家諸法度にその条文が盛り込まれた。
- ④ 將軍家光の時、慶安年間に元和令の改正が行われ、参勤交代制が正式に定められた。
- ⑤ 將軍家宣の時、新井白石が前代の天和令を改め、「文武忠孝を励し、礼儀を正すべき事」という条文に改訂した宝永令を起草した。

問4. 下線部(c)に関連して、近世の対外関係について述べた文として最も適切なものを、次の中から一つ選べ。

- ① 徳川家康は蝦夷地の松前氏にたいして、アイヌ民族を征服して年貢を取ることを認めた。
- ② 朝鮮と対馬の宗氏との間に己酉約条が結ばれ、これをもとに交易が再開された。
- ③ 幕府は1639年に中国商館を長崎の出島に移して鎖国が完成した。
- ④ 琉球王国は、薩摩の島津氏に征服されたが、存続を認められ、將軍代替わりごとに幕府に通信使を派遣した。
- ⑤ 島原の乱の後、幕府は日本人の海外渡航や帰国を禁止して朱印船貿易も終わった。

(2) 近世になると平和な時代が続いたこともあり、産業や流通が発展していった。農業生産力が上がり、米の外に<sup>(d)</sup>木綿・菜種・茶・藍・紅花などの特産地が生まれた。これにともない三都や城下町が発展した。京都は伝統都市として、西陣織など高級工芸品の生産で繁栄した。一方、大坂は北陸や西国大名の蔵屋敷がおかれ、年貢米の販売を行ったり、幕府の所在地で、大名が集まった江戸へ生活物資を供給する役割を担ったことで天下の台所と称された。幕府は、<sup>(e)</sup>五街道を整えるとともに、Eに東西廻り海運を整備させた。また大坂と江戸の間を繋いで、廻船が運航するようになり、全国市場が形成された。

全国流通が盛んになると貨幣需要も高まった。金銀錢座が設けられ、貨幣の鑄造にあたったが、江戸の金座では徳川家康に招かれて、Fが鑄造を行った。また貨幣を取り扱う両替商も発達し、為替が盛んに流通した。都市では、商品の流通にあたる問屋が成長して、やがて<sup>(f)</sup>株仲間を結成するものもあらわれた。また物資の集散にあたる卸売り市場も生まれた。大坂の天満市場はGの市場として知られるようになった。

問5. 空欄E～Gに入る語句として最も適切なものを、次の中から一つずつ選べ。

- E ①角倉了以 ②紀伊国屋文左衛門  
③河村瑞賢 ④三井高利 ⑤淀屋辰五郎  
F ①後藤庄三郎 ②荻原重秀 ③宮崎安貞  
④小西隆佐 ⑤島井宗室  
G ①生魚 ②青物 ③米 ④塩 ⑤干鰯

問6. 下線部(d)に関連して、特産の商品作物とその産地の組み合わせとして最も不適切なものを、次の中から一つ選べ。

- ①木綿—河内 ②茶—山城・駿河 ③藍—阿波  
④紅花—越後 ⑤ミカン—紀伊

問7. 下線部(e)に関連して述べた文X～Zについて、その正誤の組み合わせとして最も適切なものを、次の中から一つ選べ。

- X. 五街道は、江戸の出入口にあたる品川・新宿・板橋・千住を起点とする幹線道路として整備された。  
Y. 街道には、宿駅が置かれ、本陣・脇本陣が公用荷物の継ぎ送りなどを差配した。  
Z. 五街道は、幕府の直轄とされ、やがて道中奉行が設けられて管理した。

- ①X. 正 Y. 正 Z. 正  
②X. 正 Y. 正 Z. 誤  
③X. 正 Y. 誤 Z. 正  
④X. 正 Y. 誤 Z. 誤  
⑤X. 誤 Y. 正 Z. 正  
⑥X. 誤 Y. 正 Z. 誤  
⑦X. 誤 Y. 誤 Z. 正  
⑧X. 誤 Y. 誤 Z. 誤

問8. 下線部(f)に関連して述べた文X～Zについて、その正誤の組み合わせとして最も適切なものを、次の中から一つ選べ。

- X. 大坂では菱垣廻船で荷を送る商人が二十四組問屋を、江戸では樽廻船と結んだ商人が十組問屋を結成した。  
Y. 株仲間は、18世紀には冥加金・運上金などを出すことで独占権を認められ、幕府により設置が進められた。  
Z. 株仲間は、市場を独占して物価を押し上げるために、寛政の改革では解散を命じられたが、徹底しなかった。

- ①X. 正 Y. 正 Z. 正  
②X. 正 Y. 正 Z. 誤  
③X. 正 Y. 誤 Z. 正  
④X. 正 Y. 誤 Z. 誤  
⑤X. 誤 Y. 正 Z. 正  
⑥X. 誤 Y. 正 Z. 誤  
⑦X. 誤 Y. 誤 Z. 正  
⑧X. 誤 Y. 誤 Z. 誤

## 2020年度第1学期実力テスト H3日本史 解答用紙

学年・クラス

氏名

1				2				3			
問1				問1				問 1			
問2				問2	ア			問2	(1)		
問3	下記の解答欄に記入せよ								(2)		
問4					イ			問3			
問5	(1)	A						問4			
		B				問5					
	(2)										
	(3)			問3							
	(4)	下記の解答欄に記入せよ		問4				問6			
問6				問5				問7			
問7	(1)			問6				問8	(1)		
	(2)	下記の解答欄に記入せよ		問7					(2)	下記の解答欄に記入せよ	
								問9			

大問 1	問3										
	問5(4)										
	問7(2)										
大問 3 問8(2)											

学年・クラス	氏名
--------	----

4		6		
問1		問1	A	
問2			B	
問3			C	
問4			D	
問5		問2		
問6		問3		
5		問4		
問1		問5	E	
問2			F	
問3			G	
問4		問6		
問5		問7		
問6		問8		

解答用紙提出先： yaekomori@rikkyo.uk